

福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況について

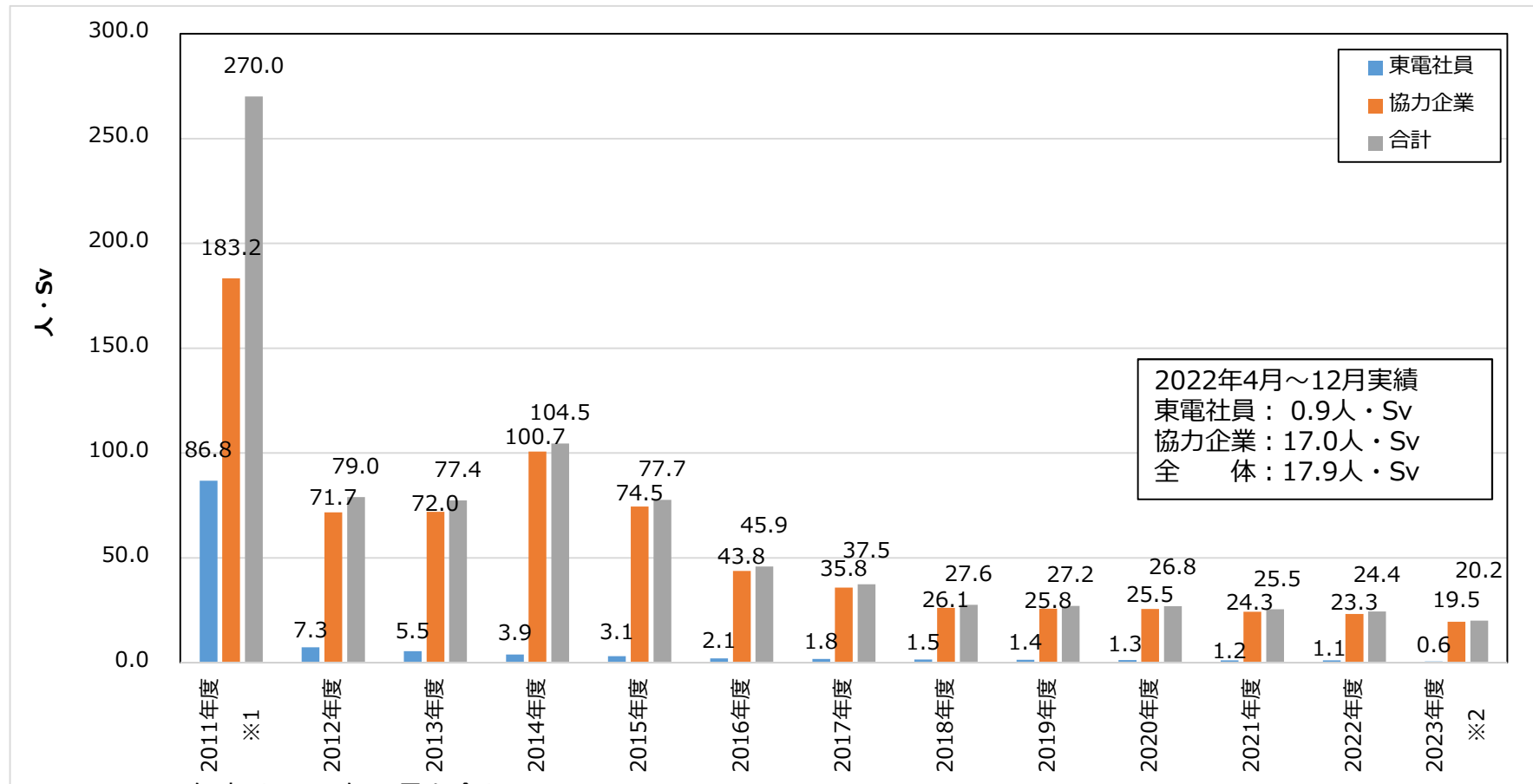
2024年2月26日

東京電力ホールディングス株式会社

① 発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（総実効線量）

- 前年度同時期と比較して、2人・Sv程度高い状況。一概に比較はできないが、今年度は、「1F-1号機大型カバー設置工事」の寄与が大きい※

※ 工事の総線量は、昨年度実績1.73人・Svに対して、今年度12月末現在にて、2.84人・Sv

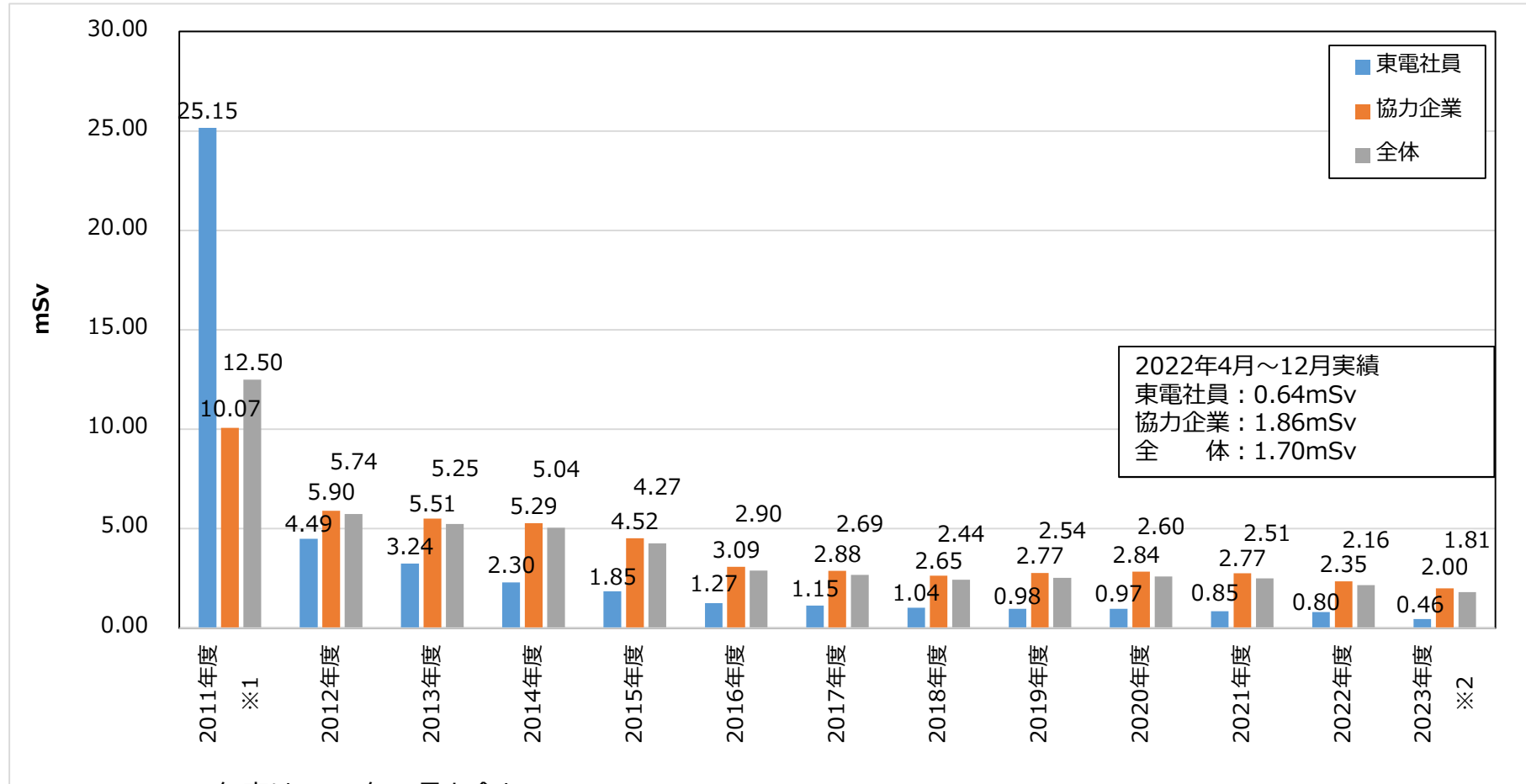


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2023年度は12月暫定値を含む

②発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（平均線量）

- 前年度同時期と同程度となっている。

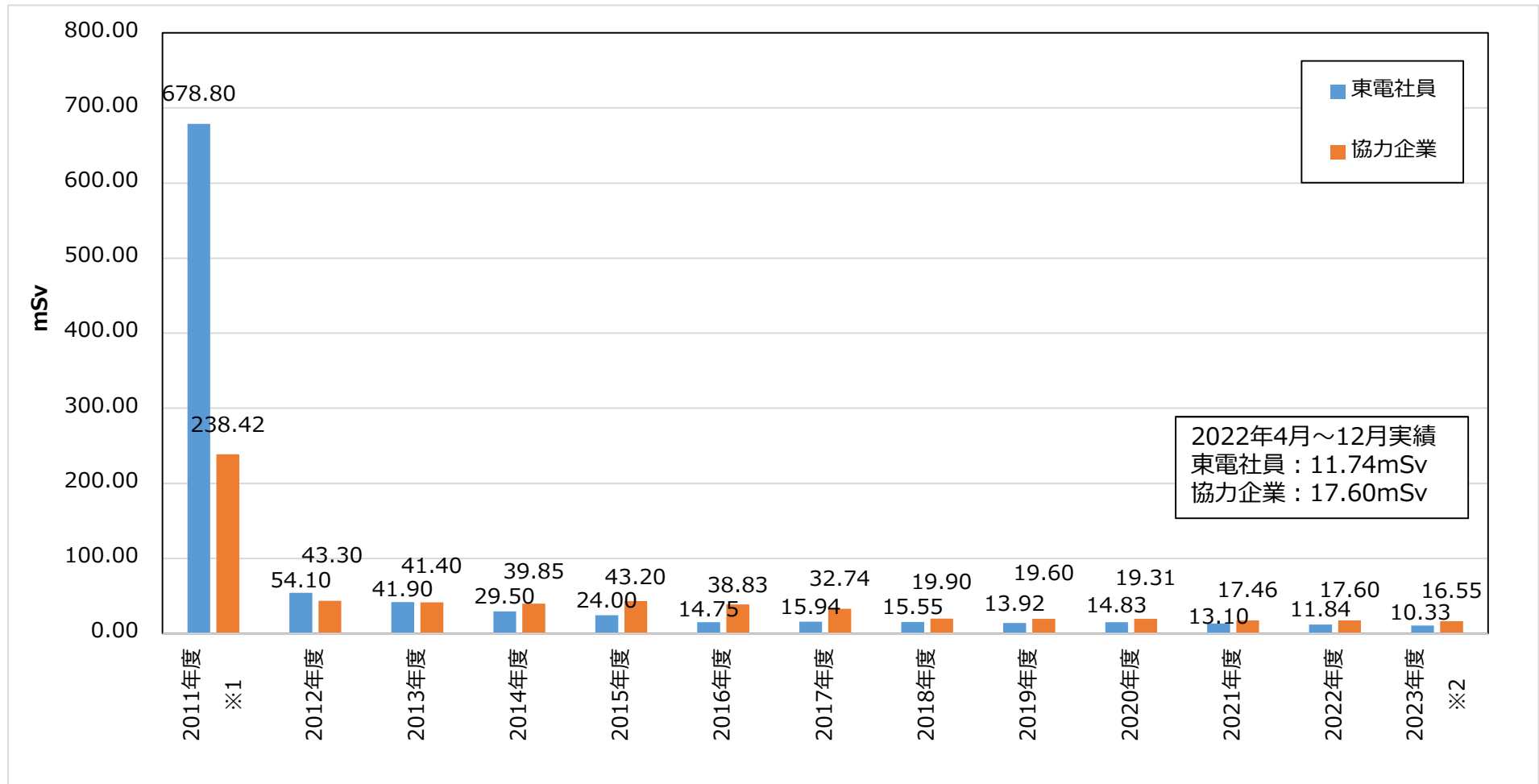


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2023年度は12月暫定値を含む

③発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（最大線量）

■ 前年度同時期と同程度となっている。

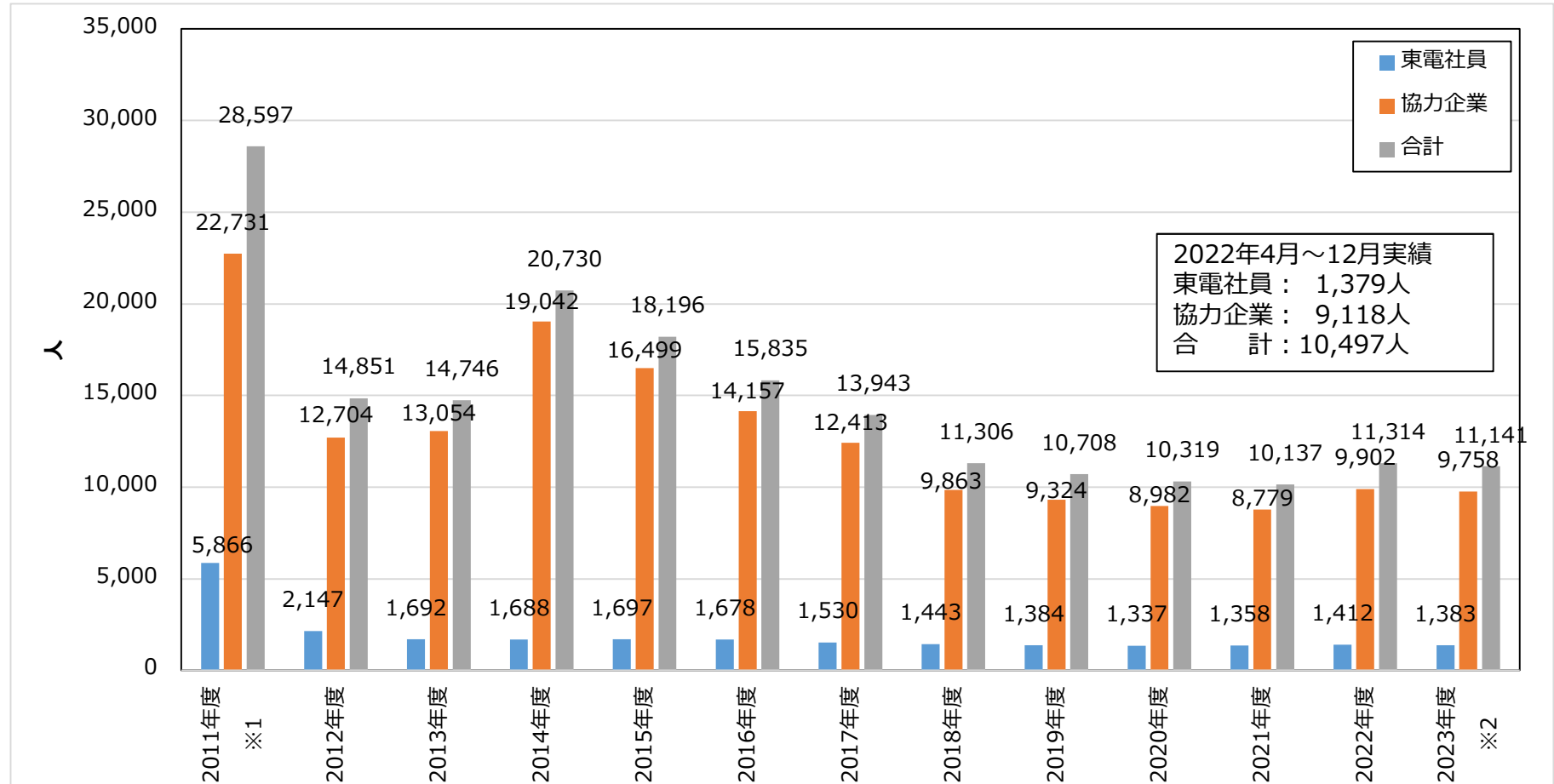


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2023年度は12月暫定値を含む

④ 発災以降の年度別放射線業務従事者数

- 前年度同時期と同程度となっている。



※1： 2011年度は2011年3月を含む

※2： 2023年度は12月暫定値を含む

⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2023年度

| 区分(mSv) | 2023.4月～2023.12月 | | |
|------------|------------------|-------|--------|
| | 東電社員 | 協力企業 | 計 |
| 100超え | 0 | 0 | 0 |
| 75超え～100以下 | 0 | 0 | 0 |
| 50超え～75以下 | 0 | 0 | 0 |
| 20超え～50以下 | 0 | 0 | 0 |
| 10超え～20以下 | 1 | 552 | 553 |
| 5超え～10以下 | 22 | 958 | 980 |
| 1超え～5以下 | 147 | 1,879 | 2,026 |
| 1以下 | 1,213 | 6,369 | 7,582 |
| 計 | 1,383 | 9,758 | 11,141 |
| 最大(mSv) | 10.33 | 16.55 | 16.55 |
| 平均(mSv) | 0.46 | 2.00 | 1.81 |

○2023年度（2023.4月～2023.12月）に作業実績のある11,141人のうち

11,141人（100%）は50mSv以下

11,141人（100%）は20mSv以下

9,608人（86.2%）は5mSv以下

○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

○2011.10月以降，記録レベル（2mSv）以上となる内部取り込みは認められていない。

※2023年12月は暫定値を含む

⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

| 区分(mSv) | 2021.4月～2023.12月 | | |
|------------|------------------|--------|--------|
| | 東電社員 | 協力企業 | 計 |
| 100超え | 0 | 0 | 0 |
| 75超え～100以下 | 0 | 0 | 0 |
| 50超え～75以下 | 0 | 1 | 1 |
| 20超え～50以下 | 20 | 883 | 903 |
| 10超え～20以下 | 49 | 1,580 | 1,629 |
| 5超え～10以下 | 101 | 1,513 | 1,614 |
| 1超え～5以下 | 344 | 2,614 | 2,958 |
| 1以下 | 1,229 | 7,548 | 8,777 |
| 計 | 1,743 | 14,139 | 15,882 |
| 最大(mSv) | 29.64 | 50.50 | 50.50 |
| 平均(mSv) | 1.68 | 4.75 | 4.41 |

○2021.4～2023.12に作業実績のある15,882人のうち

15,882人 (100%) は100mSv以下

15,881人 (99.9%) は50mSv以下

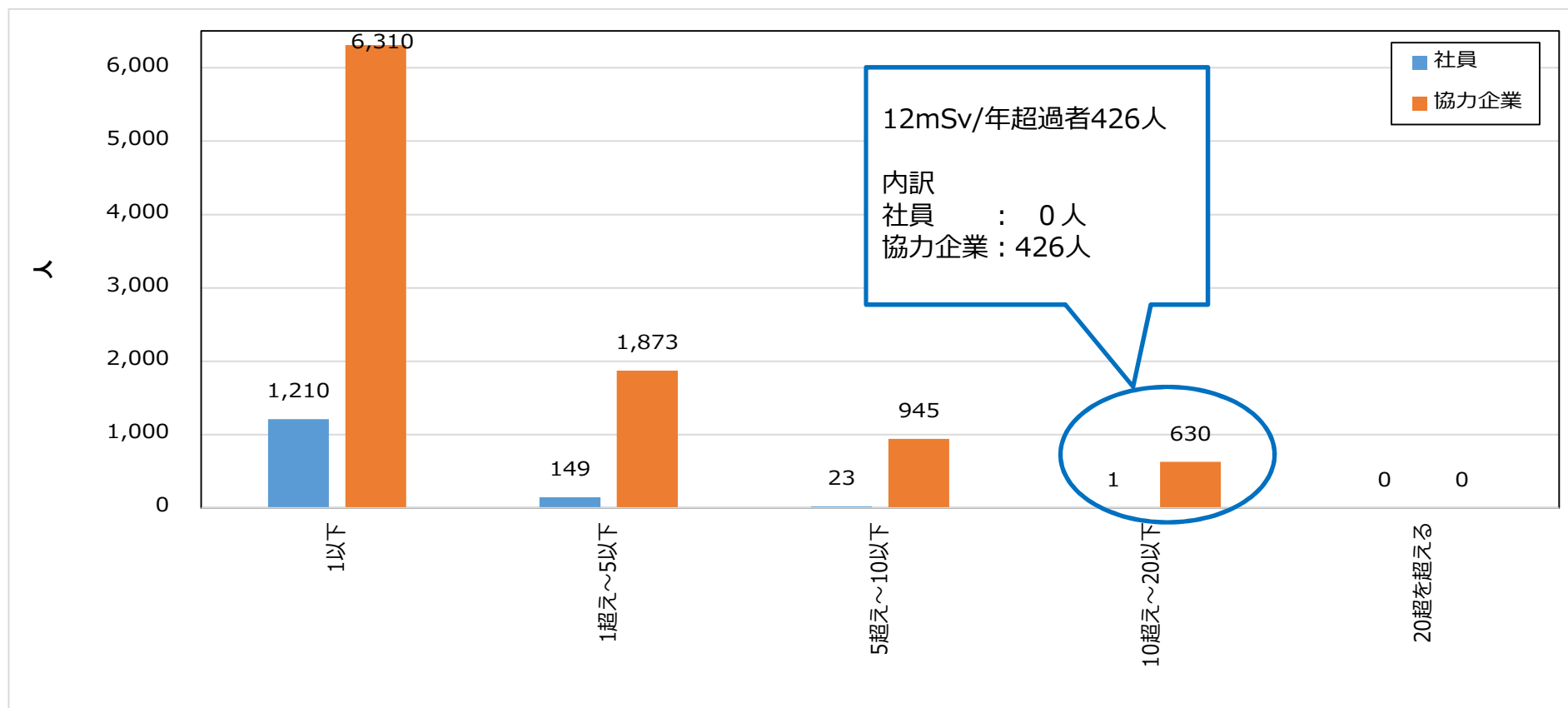
14,978人 (94.3%) は20mSv以下

○全ての作業者の被ばく線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。

※2023年12月は暫定値を含む

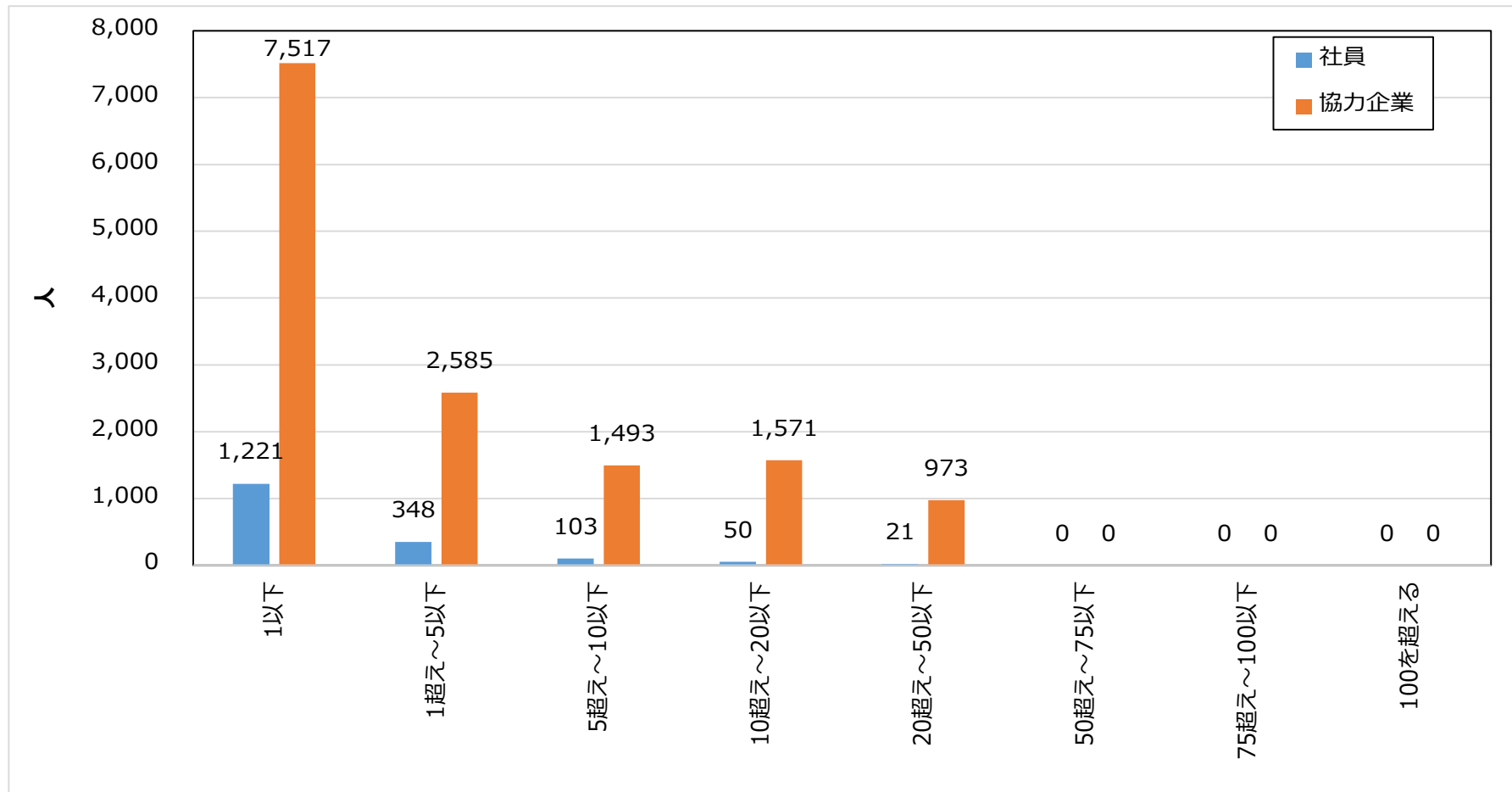
⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2023年度）

- 2023年度12月暫定時点の眼の水晶体の最大線量は、17.10mSv。
- 全ての作業者について眼の水晶体の等価線量は、線量限度内(50mSv/年)で管理。
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv/年を超える作業を計画した段階、または超えたことが確認された段階で、眼の水晶体の等価線量を、眼の水晶体近傍（又は頭頸部）で測定を開始している。



⑧2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間の累積等価線量分布

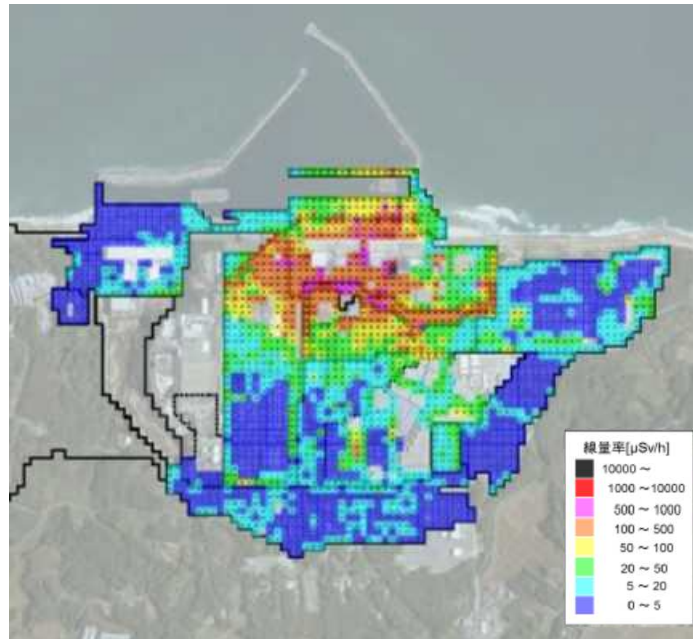
- 2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間累積等価線量の最大線量は、49.47mSv。
- 全ての作業者の眼の水晶体の等価線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。



⑨環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。
2023年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



※ 空白部分は未測定エリア

2023年度

